

法庫門營中の作（乃木希典）

東西南北幾山河 春夏秋月又花

征戰歲餘人馬老 壯心猶是不思家

東西南北幾山河

解説 奉天大会戦勝利の後、敗走する露軍を追い、法庫門に陣營を構えていた折りの作。

春夏秋月又花

語釈 ※法庫門Ⅱ旧満州奉天の北にあつた国境の門。※征戰Ⅱ従軍すること。※歳余Ⅱ一年あまり。東京を立つて旅順へ向かつてから、すでに一年余りが過ぎてゐる。※壯心Ⅱさかんに勇む気持ち。※猶Ⅱやはり、変わることなく。

征戰歲餘人馬老ゆ

通釈 東西南北、各地に転戦して、いくつもの山河を越えて来た。その間、

壯心猶お是れ家を思わす

春夏秋冬、戦場で月を見、花を眺めて戦つて過ぎ、露軍討伐のために満州に遠征して一年余りが過ぎ、人も馬も老い疲れてはいるが、戦い抜いて露軍を撃破しようとする元氣はなお旺盛で、家郷を思うような気持ちには少しも起こらない。